

【3日目/5月24日(つづき)】

西表島とちがって、与那国島には島を一周する道路があります。私は最西端の「西崎(いりざき)」から、島の東端にある「東崎(あがりざき)」まで向かいましたが、一番近道の幹線ではなく、海岸沿いの「南牧場線」を選びました。



(グーグルマップ)

地図の左端から「比川浜(ひがわはま)」に向かう一番下の道です。



この道は Dr.コトー (演; 吉岡秀隆さん) が、白衣をひるがえしながら、自転車で走るシーンに使われたことで有名です。



写真は「たぶんこのあたりだろう」という場所です。与那国島にはレンタサイクルもあるので、この道は自転車で走ってみたいと思いました。

車で 20 分も走ると、「比川(ひがわ)」という集落に着きます。与那国島の3つの集落の中では一番小さいもので、ここには郵便局もありません。しかし、有名な建物があります。「Dr.コトー診療所」です。



「Dr.コトー診療所」のドラマや映画を見たことがある方なら、「あ、あの建物だ!」とすぐにわかると思います。2022年の劇場版(映画)でも撮影に使われて、ほとんど当時の姿そのままに残っているのです。私も映画を見たことがあったので、初めて訪れたのに、何かとても懐かしい気持ちになりました。さっそくスケッチブックを開いて1枚描いておきました。



建物は内部も公開されています。入館料は 300 円ですが、内部の保全や清掃にかかる費用として、必要なのだと思います。「島民は無料」というのもいいですね。観光施設の少ない与那国島にとって、この「Dr.コトー診療所」は重要な観光資源の一つになっています。空港でもらった島内マップや、与那国町役場が作った案内パンフレットにも、もれなく掲載されました。ただ、場所がちょっとわかりにくかったです。



診療所の内部は2022年の映画の時、そのままに保存されています。受付には料金箱がありましたが、この日は係の人はいませんでした。受付に入場者が自由に書ける「雑記帳」があったので、簡単な画を一枚残してきました。



この畳の「小上がり」も映画に登場します。嵐の日に重症患者であふれる診療所にあつて、この畳にも患者が寝かされる場面がありました。私も上がって、少し昼寝しておけばよかったです。



映画で何度も登場するカップ麺の空き容器まで置いてあります。Dr.コートが往診で乗った自転車もありました。自転車の前面には、診察かばんを固定する木製の物置きが設置されています。ちょっとこの自転車を借りて、海岸の道を走ってみればよかったですと思いました。背後の「旗」も映画の中で登場したものです。



漁船の事故で骨折した漁師が入院していたシーンの病室です。質素ですが、窓から海が見える、すばらしい病室だと思いました。



窓から見える「比川浜」を描いておきました。断崖の多く、狭い砂浜しかない与那国島にあつて、比川浜は広く美しい海岸です。



貸し出し用の白衣を借りて、机で画を仕上げているら、あとから来た観光客にパチパチ写真を撮られてしまいました。どうもこの施設の管理人か何かと思われたようです。「いやいや実は・・・」と自分も観光客であることを明かし、せっかくなので1枚撮ってもらいました。私は職場でも毎日白衣を着ているし、机回りの物の配置が私の職場の机にそっくりでした。自分的には職場にいるような気分で、違和感ゼロでした。